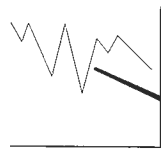


ゼミ訪問

18



“地に足のついた” 調査・研究をめざす

国士舘大学
文学部史学地理学科
地理・環境専攻
長谷川ゼミ



長谷川均 (はせがわ・ひとし)

1953年、新潟県加茂市生まれ。国士舘大学文学部史学地理学科地理・環境専攻教授。法政大学大学院地理学専攻博士課程修了。専門は自然地理学。サンゴ礁地域を対象とした調査・研究に取り組んでいる。著書に、「リモートセンシング解析の基礎」、共編著書「熱い自然—サンゴ礁の環境誌—」、「熱い心の島—サンゴ礁の風土誌—」(いずれも、古今書院)ほか。

地理学をベースにおいたゼミ

近年、高校の授業で世界史が必修となった地理を学ぶ高校生が減り、地理学科を受験する学生数が15年前のおよそ4分の1になった。東京にある国士舘大学では、40年前に文学部の中に地理学専攻を設置、自然地理、人文地理、地誌学の3分野を教えていたが、地理学科への受験者数の減少を契機に「地理学をベースにおいた環境を教えてみたい」という教員たちの意見が出始め、2004年度に「地理・環境専攻」が新設された。ここでは、グローバルな地球環境問題を学ぶだけでなく、すぐに気がつきそうな身近な環境問題を意識することに重点がおかれている。「地に足のついた」調査・研究を目指しているのだ。

その中で、主に地形学を教えているのが、長谷川均教授。長谷川教授は海岸地形の専門家、サンゴ礁地形やサンゴ礁の環境保全を研究分野としており、20年前から市民団体と共にサンゴ礁の保全を行っている。

国士舘大学の地理・環境専攻の1学年の学生数は60名、その中で長谷川ゼミでは、毎年5〜10名が学んでいる。ゼミは週一回、「ひま

わり」や「NOAA」からの衛星画像が2台の大型ディスプレイに映し出される、ガラス張りの近未来的な空間、大容量・高速化・小型化を実現したハイテクパソコンが所狭しと並ぶ「地理情報処理室」で行われている。

自然の中に飛び込んでいって調査

ゼミでは年一回、秋に3泊4日の野外実習を行っている。テーマごとに2〜3人に分かれて、調査・研究に取り組む。また、「日曜巡検」といって、日帰りで、多摩川や相模湾など、東京近辺の調査を行ったりもしている。長谷川ゼミでも、「身近な環境問題」を見つけ、「地に足のついた」調査・研究を心がけている。長谷川教授は、専門であるサンゴ礁の調査のために、毎年夏休みに1カ月間石垣島へ行っているのだが、その際ゼミの生徒も参加する。長谷川教授は話す。

「地理学の魅力は、机の上の学問ではないという点です。実際に自然の中に飛び込んでいって、実態を見て、それを調査するのです。学問としての地理学や環境問題を教えることも大事ですが、足もとにある問題を知るためには、自然の中に入っていかなければなりません」

長谷川ゼミで学んだ生徒たちは…

そんな長谷川ゼミで学んだ生徒たちは、その成果として、どんな卒業論文をまとめるのだろうか。例えば、あるサーファアの学生は、千葉と新潟の海岸漂着ごみを調査した。彼自身、ボランティアでビーチクリーンに参加していたのだが、実に数千個のごみを実際に集めて、それらを全て分類し、そのごみについているバーコードで国が判別できるため、1



長谷川ゼミ。

個1個のごみについて国を特定していった。この途方もない作業を実現できたのも、長谷川教授の「地に足のついた」調査がいかに大事かを学んだ成果なのだろう。

長谷川ゼミを卒業し、大学院の修士課程を修了し、現在、研究生として、引き続き研究をしている鈴木敬子さんは、長谷川ゼミについて、次のように話している。「長谷川先生のもとで、地形学、環境学、GIS、リモートセンシングなどの基本を学ばせてもらいました。それらを防災に役立てられるのではないかと考え、活断層や変動地形の研究を行っています。昔に起こった活断層による地震はどんな地形をつくってきたのか、日本の山々は、どのような地震によってつくられたのか、コンピュータによるシミュレーションにより、地下構造を画像化していくことによって、それらを分析しています。このような研究は、地震が起こりやすい地域と、実際に地震が発生し、津波が起きた際の非難場所を地形的に割り出すことができます。長谷川ゼミで学んだことを生かし、誰にも起こりうる身近な問題について、これからも取り組んでいきたいと思っています。」

⑦

地理学を ベースに 環境を学ぶ

推 薦 図 書

推 薦 イ ベ ン ト



初めてリモートセンシングに取り組もうとしている人たち、もしくは文系の大学生などを読者対象として、パソコンレベルで可能な解析を練習問題に設定した、リモートセンシングへの「道案内」的役割を担う一冊。

「リモートセンシングデータ解析の基礎」

著者／長谷川均
発行／古今書院
定価／3500円



カナダを代表する大河サン・ローランの歴史を描いた短編アニメ映画「大いなる河の流れ」を、さらに詳しく図解した豪華本。この映画を制作したのは、アニメ映画「木を植える男」の作者フレデリック・バックだ。

「大いなる河の流れ —よみがえれ、サン・ローラン—」

著者／フレデリック・バック、クロード・ヴィルヌーヴ
発行／あすなろ書房
定価／2850円

国士舘大学文学部史学地理学科地理・環境専攻では、2000年から毎年、夏の2日間、中学校・高校の社会科及び地歴科教員を対象とした「地理ワークショップ」を開催している。今年も7月下旬に開催予定。一般参加も可能。詳細はホームページを参照のこと。

<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>
過去の開催内容は以下の通り。

- 「初・中級リモートセンシング」(2001年)
- 「社会科教員のためのGIS」(2002年)
- 「『地域調べ』の方法を探る」(2003年)
- 「授業で使える衛星データ—無償ソフトで作るリモートセンシング画像—」(2004年)
- 「江戸・東京の神話的空間と映画の中の場所の意味」(2005年)